

1 序

本報では自由境界面を近似的に算定する方法について検討した。従来より塩水楔などの自由境界面形状を近似的に算定するには準一様流などを仮定し求めた方法が文献^{1),2),3)}などに要約されているが本報告では自由境界面の流線の方程式を考慮してその近似解析について検討してみた。

2. 解析方法

解析の方法は自由境界面が一つの流線であるという条件; $u_0^2 + v_0^2 + \alpha \psi_0 = 0$ (1)⁴⁾を用いる。ここに α は(4)自由表面の場合には淡水係数 g (cm/sec), (4)炭塩境界面の場合には $-(\rho_2 - \rho_1)/\rho_1 \cdot g$, ここに ρ_2, ρ_1 は海水, 淡水の密度。解析の手順は次のようである。①水平流速の仮定②連続の式より鉛直流速を求める③(1)式を用いて境界面形状を求める④鉛直流速について Darcy 則を適用して圧力分布を求める⑤③④から流量自由境界などを求める。

3. 解析例(I) 図-1 に示す2次元自由表面の形状、流量を求めてみる。

いま水平流速 u を近似的に $u \doteq Q_0/\eta(x)$ ----- (2) と仮定する。 $y=0$ で

$$\Pi=0$$
であることと考慮し、連続の式により $\Gamma=-\int \frac{\partial w}{\partial r} r dr = (0.4/\pi^2(r)) d\eta/dr$ (B)

自由表面上では $U = 0$, $n(x) = 0$, $\frac{d\psi}{dx} = 0$ かつ (1) 式に代入する

$$1. \quad |f(x)|^2 + (g(x))^2 = 1 \quad \text{--- (1)} \quad \text{根の公式により } f(x)/g(x) \text{ を求む}$$
$$E: (u \vee \alpha) + |K|/d_0 \cdot u \vee \alpha + \equiv 0 \quad \dots (4) \quad \text{根の公式によ} \quad u \vee \alpha \in K$$

と $d\eta/dx = \{-k(1 \pm \sqrt{k^2 - 4Q_0})/2Q_0\}$ となるが $d\eta/dx < 0$ (なければならぬ) となるのは

らな11ので正号をとり $\alpha=0$ で $\eta=H_0$ の境界条件のもとに積分すると次式で

$$\chi = k(H_0^2 - \eta^2)/4Q_0 + k[H_0\sqrt{H_0^2 - 4Q_0^2/k^2} - \eta|\eta^2 - 4Q_0^2/k^2|]/4Q_0 - (Q_0/k)\ln\{(H_0 +$$

次に流量 Q を定めよう。Darcy則を(3)式に適用すると、 p は圧力分布と

したがって y について積分し $y = \eta(x)$ 上で $p = 0$ (大気圧) とすれば $p = \rho g \eta / 2$

さらに図-1中A点($x=L, y=0$)の圧力が湛水静水圧 $\rho_0 g H_0$ と等しいと仮定する

$$\therefore \therefore \frac{d\eta}{dx} = \left\{ -k\eta(L) + \sqrt{k^2\eta(L)^2 - 4Q_0^2} \right\} / 2Q_0 \quad \text{である。 (5)式に } x=L \text{ を代入す}$$
$$I = \frac{B(H^2 - \eta(1)^2)/40 + \frac{B}{2} \left[H^2 - 4Q^2/B^2 - \eta(1) \left(\eta(1)^2 - 4Q^2/B^2 \right) \right] / 40 - (Q/B) \ln \left| \frac{H + \sqrt{H^2 - 4Q^2/B^2}}{H - \sqrt{H^2 - 4Q^2/B^2}} \right|}{X=L}$$

(4)式と(8)式とから未知数(1)と(2)が算定でき(4)式(1)式に代入して自由表面

4. 羽竹創刊 図-2に三才城匠の板木標が示されてゐる。各標は①、②、

4. 肝臓例(山) 図-2に示す板正の臨水伏形状と水ある。領域と①, ②

(1) 領域は $r=0$ から $r=R$ まで; 鉛直流速 $u_z = 0$ であるから圧力分布 p は $p = \rho g (H_0 - y) + p_0$

(4) 2 領域について; 水平流速 $u_2 = Q_0 / (D - \eta(x)) \cdots \cdots (10)$ で近似する。鉛直流

速 u_2 は $y=D$ で $u_2=0$ であることを考慮し連続の式により次式とする

$$\therefore v_{2a} = Q_0(D-y)/(D-\eta)^2 \cdot d\eta/dx \dots (II), \quad u_{2a} = Q_0/(D-\eta), \quad v_{2b} = Q_0/(D-\eta) \cdot d\eta/dx \quad \in (I)$$

式に代入し整理すると $(d\eta/dx)^2 - (Re(D-\eta)/Q_0) d\eta/dx + 1 = 0 \dots (12)$ $\therefore \therefore \therefore \therefore$

$$\varepsilon = (p_0 - p_1)/p_1 \quad \text{и} \quad \xi(x) = D\eta(x), \quad d^2\eta/dx^2 > 0, \quad x \in l \quad \eta(0) = 0, \quad \xi(l) = D\tau_2$$

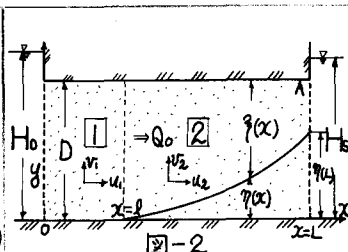
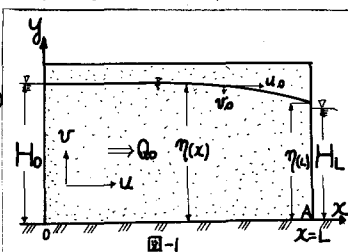
3条件を用い(4)式を積分して $P' = ER/Q_0$ として次式を得る。

$$T = \frac{6(D^2 - \xi^2)}{4} + \frac{6(D\sqrt{D^2 - 4/\kappa^2} - \xi\sqrt{\xi^2 - 4/\kappa^2})}{4 - \ln\left(1 + \sqrt{D^2 - 4/\kappa^2}\right)/\left(\xi + \sqrt{\xi^2 - 4/\kappa^2}\right)} \Big|_{\xi'}^{\xi} + l \dots (13)$$
$$\text{よって、川口で Demand 則に適用し、淡直接見直しで } b - p_9(H - g(x)) \text{ に係数 } z, b, z$$
$$b = (0.89/2\pi) \sqrt{(10.4^2/10\pi^2) + 1} \approx 1.1 = 0.89 + (1/2\pi) 0.89 \approx 0.89 \quad (10)$$
$$P_2 = \left(\frac{1}{\gamma} + \frac{\alpha}{2k} \right) L^{\frac{1}{\gamma}} \left(\frac{d}{V-1} - 1 \right) d / dx - \varepsilon \frac{1}{\gamma} + (1/\varepsilon) \frac{1}{\gamma} H S - \frac{1}{\gamma} f f' \dots (A)$$

(ii) ①, ② 領域の格線について; $x=1$ で圧力の連続条件について考えてみる

$$p_2 - p_1 = \rho_f g [(1+\epsilon)H_S - H_0] + \rho_f g L [Q_0 / (K D) + (\rho_f g Q_0 / (2K)) [(D-y)^2 / D^2 - 1]] \left. \frac{d\eta}{dx} \right|_{x=0} \dots$$

-153-



すなわち $l = (H_0 - (1+\epsilon)H_s)R_D/Q_0$ (16) である。これは□領域を準一様流として求めた場合の l に等しい。 $y=0$ の実では圧力の連続条件はこのときには成り立たないが塩水楔先端の実 l はこのための誤差の影響をさほど受けないものと考えられる。次に図-2中A点の圧力が塩水静水圧: $\beta_2(1+\epsilon)(H_s-D)$ に等しいと仮定すると、

$$(1+\epsilon)H_s - D = -(Q_0/2R) \frac{d\eta}{dx} \Big|_{x=L} + (H_s - \eta(L)) \quad \text{---(17)} \quad \text{一方 } \eta(L) \text{ は(13)式に } x=L \text{ を代入すれば}$$

$$L = R \left\{ \frac{(D^2 - \xi(L)^2)}{4} + R \left[D \sqrt{D^2 - 4/R^2} - \xi(L) \sqrt{\xi(L)^2 - 4/R^2} \right] / 4 - \ln \left| \frac{D + \sqrt{D^2 - 4/R^2}}{\xi(L) + \sqrt{\xi(L)^2 - 4/R^2}} \right| \right\} / R' + l \quad \text{---(18)}$$

(16), (17), (18)式において未知量は $l, \eta(L), Q_0$ であるからこれらが定まる。

5. 解析例図 上述の例では未知の境界面が一つであったが図-3のような場合には未知の境界面は自由表面 $\delta(x)$ と淡塩境界面 $\eta_2(x)$ の二つである。

いま $\xi(x) \equiv H_s - \eta_2(x) + \delta(x)$ とし $y = H_s + \delta(x)$ 上での鉛直流速を $v_3(x)$ とし、

$$u = Q_0/\xi(x) \text{ と連続の式から } v = (Q_0/\xi^2) \frac{d\xi}{dx} (y - H_s - \delta) + v_3 \quad \text{---(19)}$$

$y = H_s + \delta(x)$ および $y = \eta_2(x)$ 上で(1)式を立てると自由表面上においては、

$$(Q_0/\xi)^2 + v_3^2 + Rv_3 = 0 \quad \text{---(20)} \quad \text{淡塩境界面上においても同様に次式をうる。}$$

$$(Q_0/\xi^2) + \left\{ -Q_0 \frac{d\xi}{dx} + v_3 \right\}^2 - R \xi \left\{ -Q_0 \frac{d\xi}{dx} + v_3 \right\} = 0 \quad \text{---(21)} \quad v_3^2 \ll 1 \text{ として(20)式から } v_3 \approx -Q_0^2/(R\xi^2), \text{ これを(21)式に代入すれば}$$

$$\left(\frac{d\xi}{dx} \right)^2 + (2Q_0/R\xi - R\xi/Q_0) \frac{d\xi}{dx} + (1+\epsilon) = 0 \quad \text{---(22)} \quad \xi(x) \text{ は } \eta_2(x) \text{ の性質に支配されるので } d^2\xi/dx^2 < 0 \text{ を考慮し } x=l \text{ で } \xi(l) = (1+\epsilon)H_s \text{ を仮定すれば(22)式を積分し } \xi(x) \text{ をうる。}$$

$$x = \left\{ \frac{RQ_0}{2Q_0} \right\} \left\{ (1+\epsilon)H_s^2 - \xi^2 \right\} + R \xi \sqrt{1 - \epsilon^2} Q_0 \cdot \left\{ \sqrt{(1+\epsilon)^2 H_s^2 - 4Q_0^2 H_s^2 / R^2 \epsilon^2 + 4Q_0^2 / R^2} - \sqrt{\xi^2 - 4Q_0^2 / R^2 \epsilon^2 + 4Q_0^2 / R^2} \right\}$$

$$+ (2Q_0/R) \ln \left\{ H_s(1+\epsilon)/\xi \right\} + (2Q_0(1-\epsilon^2)/R \xi) \ln \left\{ (H_s(1+\epsilon)^2 - Q_0^2/R^2) / (\xi^2 - Q_0^2/R^2) \right\} / 2(1+\epsilon) + l \quad \text{---(23)}$$

(19)式にDarcy則を適用し淡塩境界面上で海水静水圧に等しいとすれば圧力分布 p_2 は次のように求められる。

$$p_2 = (\beta_2 Q_0 / 2R) \cdot \left[1 - (y - H_s - \delta)^2 / \xi^2 \right] \frac{d\xi}{dx} + (\beta_2 Q_0^2 / R^2 \xi) \cdot (y - \eta_2) + (1+\epsilon) \beta_2 (H_s - \eta_2) - \beta_2 (y - \eta_2) \quad \text{---(24)}$$

$$y = H_s + \delta(x) \text{ 上では } p_2 = (\beta_2 Q_0 / 2R) \frac{d\xi}{dx} + \beta_2 Q_0^2 / R^2 \xi + (1+\epsilon) \beta_2 (H_s - \eta_2) - \beta_2 \delta \quad \text{---(25)} \quad \text{二式で } p_2 = 0 \text{ とすれば右辺第1, 第2項が0の場合は } \xi(x) = (1+\epsilon)(H_s - \eta_2(x)) \text{ となり, Herzberg の仮定をうる。次に図中□領域については(4)式の第1項を無視した解: } x = R(H_0^2 - \eta(x)^2) / 2Q_0 \text{ に } x=l \text{ で } \eta(l) = (1+\epsilon)H_s \text{ を与えよと次式をうる。}$$

$$l = R(H_0^2 - (1+\epsilon)^2 H_s^2) / 2Q_0 \quad \text{---(26)} \quad (23) \text{式で } x=L \text{ で } \xi(L) \text{ とした式, (25)式で } p_2=0, \xi(L), \eta_2(L) \text{ を } d\xi/dx|_{x=L} \text{ を代入した式, および(26)式の3式について未知数は } Q_0, l, \xi(L), \eta_2(L) \text{ の4つとなる。いま, この現象で流量については準一様流とみなしても比較的良好な精度で流量が求められると場} \text{ 合に } \eta_2 \text{ により } \eta \text{ が与えられていることに基づいて, 今度は}$$

$$Q_0 = R \{ H_0^2 - (1+\epsilon)^2 H_s^2 \} / (2L) \quad \text{---(27)} \quad \text{を用いければ上記4つの未知数を求める。}$$

6. 考察

この近似法では水平流速が高さ方向にそれほど変化しないような場合を仮定している。しかしこの解析においても基本となる微分方程式はすべて同じ形式であり、水平流速の仮定が決定的な役割を果たしている。(5)式の解でもまた(13)式, (23)式でも第1, 第2項がほぼ同じ程度で第3項は前者に比べてかなり小さい場合には(5)式は、準一様流の仮定のDupuit-Forchheimerの解に一致し、(13), (23)式も準一様流の解に一致する。これは基本となる微分方程式(4), (12), (23)式において形状曲線の勾配の2乗が無視できる場合に相当する。なお、実験結果および解析法などとの比較検討、この解析法の適用限界および塩水楔の物理的性質について今後考察を行ってゆくつもりである。

参考文献

- 1) 「地下水(密度流的問題)」: 嶋裕之、水工学に関する夏期講習会(1971年) p. A-8-1
- 2) 「鉛直流速の影響を考慮した堤体浸透流の非定常現象」: 嶋裕之、昭和43年土木学会年次講演会概要集 p. 419
- 3) 「土の中の水の動き」: 土質工学ハンドブック 第4章 p. 75
- 4) 「Dynamics of Fluids in Porous Media」: Jacob Bear, American Elsevier Publishing Company, Inc. p. 517